

第3回（追加）ヤリタナゴ懇談会レポート

令和4年1月11日

やりたなごの会掛川優子

1, 開催日時

令和3年12月22日（水） 14:00～16:30

2, 開催場所

下戸塚環境水路、下戸塚公会堂

3, 出席者8名（順不同・敬称略）

西部農業事務所（中林静夫、塩野雅義）、ヤリタナゴを守る会（福田耕一）、旧笹川を守る会（常澤裕）、ヤリタナゴ調査会（斉藤裕也）、株）チノー（高橋哲夫）、藤岡北高（新井健司）、やりたなごの会（掛川優子）

4, 内容

第3回ヤリタナゴ懇談会で案内の連絡漏れがありましたので、お忙しいところ大変恐縮でしたが、追加で行いました。

5, 現地視察内容

第3回ヤリタナゴ懇談会と同様に岡之郷堰から下がり川（下戸塚地区環境水路）の視察を行いました。

説明担当は、ヤリタナゴを守る会会長・福田耕一さんです。

・岡之郷堰

岡之郷堰から取水している分土工（写真1）は、工事以前は土水路（写真2）で、改修はされないはずだったが、工期中に改修されることを聞きました。工事前の取水口と違い、魚道はありますが、笹川との行き来はしづらくなつたと見えます。ヤリタナゴは笹川も生息域でした。また取水する位置も高くなつたので、岡之郷堰の笹川の水位も高くなると取水



写真1 岡之郷堰下の新分土工



写真2 旧岡之郷堰からの取水地点
板の抜き差しで水量の調節をした

しづらくなり、下がり川の水が影響を受けている。

・下がり川の雑草

水沼神社から曲がった辺りはのり面が土で、川底は砂礫で水草（コカナダモ・外来種）が繁茂しています。30mほど下ると練り石積みの護岸となり、その辺りからオオカワジシャ（特定外来生物）が点在し始め、大きな群落もできている（写真3）。幹線水路に流入するまで4つの曲がりがあるが、曲がるごとに両側に主にイネ科雑草などが増え（写真4）、学童保育の角を過ぎたあたりから、川底一帯にイネ科雑草が侵入している。



写真3 オオカワジシャの大群落



写真4 下ると増えてくるイネ科雑草

5. 意見交換の内容（於：下戸塚公会堂）

・ヤリタナゴ調査会齊藤さんより生物調査の内容説明がありました。

「前日の12月21日に下戸塚で採取した水生動物の写真です（写真5）。魚はタモロコ、エビはカワリヌマエビ属(外来種)とカワニナです。水中にはコカナダモが繁茂しています。採取場所は、下がり川そばの墓場（新しい分水工から約100メートル下）の周囲です。」

笹川には神流川の水が神流堰から入っていたが、令和元年台風19号で被害を受け、灌漑期には手を入れ取水しているが、ほとんどは神流川頭首工（神川町新宿）から牛田幹線水路を通り笹川に配水されている。神流川頭首工にも魚道は造られているし、岡之郷堰下の分水工にも魚道はあるが、魚たちの行き来は難しくなったと考えられるから、下戸塚の環境水路に以前のように魚が戻ってこないとしても、それは水路が直線的であるとか、平坦で深みがないから隠れ場がないとかなどの構造だけに問題があるのではない、と考えられる。



写真5 分水工下で採取されたタモロコ等

・下がり川の除草は、多面的機能支払交付金を活用して、地元の皆さんが年5回ほど、水路の水を切って、刈り払機で行っている。イネ科雑草の生長点は、畔などに生える広葉雑草と違い、地面と接する低い位置にあるので、通常のと草刈りをおこなうと生長点よりも上で刈ることになり、刈ってもすぐ新芽を伸ばして広がってしまう。地面の下に鎌を入れて生長点の下の根を刈り取らなければ、除草効果は上がらない。そこで、北高の新井先生に、藤岡の3高(北高、藤工、中央)に合同草刈りボランティアを募集してもらえないかと相談になり、新井先生から守る会福田さんと日程など調整しようという回答がありました。ぜひ、実現していただきたいと思います。

なお、雑草の種類により除草の仕方も違いますので、種名を問い合わせ中です。

以上。

本レポートは、大変拙く恐縮しておりますが、
ご意見、追加、修正などいただければ、幸いです。

順不同で、第1回、第2回のレポートも作成中です。

やりたなごの会

掛川 優子

E-Mail : kakegawa2015@fg7.so-net.ne.jp

U R L : <http://kawagera.sakura.ne.jp/yaritanago/yaritanagoindex.html>

Mobile : 080 - 5646 - 2783
